

総力特集!

絶対飛行服

AIR CREW PERSONAL PROTECTIVE EQUIPMENT (CLOTHING)

- 038 中田哲二、我れ飛行服の魂と化す!
- 040 “空の海賊”が愛したジャケットたち
- 048 COMBAT MAGAZINE Recommend 2020 FJ Catalog
- 054 最注目! MASHから“新しい”L-2Aが登場!

CONTENTS

Cover Photo
Gary Coppage
© WORLD PHOTO PRESS 2020
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。



1
2
3
4
5
6

Richard "Dick" Rutan, Misty 40, was one of the few pilots who flew over 100 Misty FAC missions. On his 105th and final Misty FAC mission, he was able to complete his tour. He was a combat pilot with a Silver Heart. He was also a pilot as a civilian test pilot, one of the first days of flight.

Each Misty FAC had a pre-printed plaque that was stamped with the mission total at the completion of a tour. If a Misty FAC did not survive, the plaque was sent home to his family.

The Misty FACs adopted the words of John Stuart Mill, a 19th Century British philosopher.

Rutan used this helmet bag throughout his Air Force career. It has patches of his units from initial training to retirement. Rutan nearly lost the bag during ejection over England after an extensive, five-day search of the area, he found it hanging from a tree branch.

Rutan wore this helmet toward the end of his Air Force career and beyond (his original Misty FAC helmet was lost during an ejection). As a civilian test pilot, Rutan used this helmet while flying the LongEZ, StarShip, Next Generation Trainer, and EZRocket prototypes. He also wore it while trying to circle the globe non-stop in a balloon. During the attempt, the balloon envelope failed, and he was forced to bail out of the Global Hilton balloon.

056 第15回 サイゴン物語 Saigon Memories
Propaganda Posters in Saigon
プロパガンダポスター巡り Part 2

060 “YANKEE STATION”
—Tonkin Bay U.S. Aircraft Carrier—
アメリカ海軍航空母艦

070 東京マルイ
ガスブローバック
タクティカル・ハンドガン

079 WESTERN ARMS
SVIタクティカルカスタム
タラン・バトラー・モデル《ウエポンライト》
コルト・ニューエージェント(リアルスチールVer.)

086 Militaria Roundup!
アメリカ軍通信装備 EE-8&BC-611

092 新製品てんこ盛り!
COMBAT mono
094 トイガンニュース

- WA コルト・コマンドー《ガルシア/ガンブラックバージョン》
- タナカ S&W M66 2.5インチ コンバットマグナム《Ver.3》
- タナカ S&W M29 カウンターポード6 1/2インチVer.3 《スチール・フィニッシュ》
- マルゼン APS SR-2(OR)バイポッド・セット

COMBAT FRONT LINE

- 068 北のミリタリーベース キャプテントムが面白い!
- 069 自衛隊、アフリカの地にて!
10周年を迎えた派遣海賊対処行動部隊の今
- 097 ゲームOTT『ゴーストリコン ブレイクポイント』
- 098 コラム ベトナムを遠く離れて——。文/小倉 徹
- 109 PRESENT & CIC
- 110 バックナンバー
- 111 奥付&次号予告

AVIATION-CREW SYSTEMS

絶対飛行服

構成=コンバットマガジン編集部

AIR CREW PERSONAL PROTECTIVE EQUIPMENT (CLOTHING)

ANTI-EXPOSURE HOOD
MIL-H-81500
OR
HGU-32/P

CWU-62/P SERIES
ANTI-EXPOSURE
OVERALL

CWU-23/P LINER,
CWU-72/P LINER, OR
CWU-81/P AND
CWU-82/P LINERS
AND
CWU-43/P DRAWERS AND
CWU-44/P UNDERSHIRT

ANTI-EXPOSURE M
MIL-M-81534
OR
HAU-12/P

CWU-17/P SUMMER
FLYER'S COVERALL

FLYER'S BOOT

これが最新のフライト ジャケットのかたちだ。

CWU-106/P フライトジャケット CWU-108/P トラウザーズ

アメリカ軍フライトジャケットの顔として長らく活躍を続けてきたCWU-45、36/Pに代わって、近年姿を見せるようになった新型ジャケット、CWU-106/P。多くの新機軸を盛りこんだこのジャケットは初めてその存在が確認された2000年代から10年を過ぎた今日でもその全貌が掴めず、多くのフライトジャケット愛好家が頭を悩ませている。今回はCWU-106/Pの生い立ちから現場での評判に至るまで総力を挙げて掘り下げてみたい。さらにCWU-45/P、レザージャケット、ブーツ、グローブ、サバイバルベストに至るフライト衣料全般を徹底的に解説する。

フライトジャケット史上最も機能的で最もミステリアスなジャケット、CWU-106/P

ルーツは海軍にあり

難燃性素材のノーメックスを用いた革命的フライトジャケット、CWU-45、36/Pは70年代から海軍と空軍の区別なく支給が続けられている大傑作である。しかし採用から40年以上たった今日ではさらなる機能性を求める声も少なくなく、アメリカ軍ではより良いフライト衣料を開発するためさまざまなテストが繰り返されているのだが、今回紹介するCWU-106/Pジャケッ

ともこうした動きから採用された海軍の新型衣料システムMCPSのアウトershellジャケットにそのルーツがある。MCPSはMulti Climate Protectionの略で、アウトershellのジャケットとトラウザーズ、各種ライナーの組み合わせでどんな気候でも快適に活動できるようにデザインされているのが特徴だ。MCPSには今までのフライト衣料と同じく難燃性の素材が用いられているが、アウトershellは100%ノーメックスではなくノーメ

ックスとケブラー、帯電防止繊維の混紡布地で作られていて静電気による火災や布地の強度に対して大幅な改善が試みられ、タグやファスナーに見られるGORE-TEXの表記を見ると通気性防水の機能も備えているようだ。興味深いことにこのアウトershellにはドライクリーニング禁止の注意書きがあり、それまでドライクリーニングオンリーだったノーメックスやゴアテックス製衣料とは手入れの面においても一線を画している。

CWU-106/P MCPSレイヤー5 NOMEX/ GORE-TEXジャケット

CWU-106/Pの基本的なデザインはCWU-45/Pを踏襲したものだが、袖口には大きな変化が見られ、全体的にゆったりとした作り。ペンポケットに追加された大型のフラップは差したペンがコックピットの機器に触れるのを防止する。

TROUSER, MEN'S, OUTERSHELL, COLD WEATHER, WATERPROOF CWU-108/P
PD NUMBER: NAWC PD 4631-04-13
92% NOMEX® 5% KEVLAR® 3% P140
CONTRACT NUMBER: SPM1C1-13-D-1012
ID: F123939
PROPPER INTERNATIONAL, INC.
LAUNDERING INSTRUCTIONS:
MACHINE WASH WARM
RINSE THOROUGHLY.
TUMBLE DRY WARM
DO NOT DRY CLEAN
OR
FOLLOW SHIPBOARD WASH FORMULA II

CWU-108/P COLD WEATHER, WATERPROOF トラウザーズ

CWU-106/Pとセットで着用するCWU-108/Pトラウザーズは後ろの股上が長く、膝が予め曲がっているなどシートに座っての着用を意識した作りになっている。ラベルのコントラクトナンバーSPM1C1-13-D-1012はこのトラウザーズが2013年度の予算で製造されたロットの1枚であることを示している。

JACKET, MEN'S, OUTERSHELL, COLD WEATHER, WATERPROOF CWU-106/P
PD NUMBER: NAWC PD 4631-04-11
92% NOMEX® 5% KEVLAR® 3% P140

PROPPER INTERNATIONAL, INC.
MADE IN USA

LAUNDERING INSTRUCTIONS:
MACHINE WASH WARM
RINSE THOROUGHLY.
TUMBLE DRY WARM
DO NOT DRY CLEAN
OR
FOLLOW SHIPBOARD WASH
FORMULA II

**Tracking the MiGs:
EC-121 Airborne Early Warning**

EC-121s played a key role by monitoring airborne North Vietnamese MiGs and guiding USAF fighters to intercept them. Orbiting securely outside the border, EC-121 crews used the aircraft's radar and enemy radio communications to detect and locate MiGs within North Vietnamese airspace. These operations began in the spring of 1965 under the code name BIG EYE (later named COLLEGE EYE and DISCO), and continued beyond the end of the war.

第552早期警戒航空団のライルアーナー少佐が着用したMA-1は酸素マスクのホースを固定するボックスタブが付き、左肩にエアフォースマークのデカールが付き、酸素マスクのホースを固定するボックスタブを装備していたこれらのジャケットは1960年代に入るとベトナムでの戦いを予期したかのようにライニングをレスキューカラーのインディアンオレンジに変更した中期型が現れ、このディテールは戦争の全期間を通して変更されることはなかった。軍隊では自らのキャリアを示すためにあえて古いデザインのユニフォームを着用する例がしばしば見られるが、60年代のアメリカ空軍もその例外ではなくベテランのバ



LT Col Almer's party shirt. On the shirt's right sleeve is a patch representing operations based in Thailand and below it is a patch reading 100 combat missions. On the shirt's right front flap is a patch on the left side for the 552nd Reconnaissance Squadron and the 552nd Reconnaissance Wing, and on the right side is a patch representing the crew Almer's crew.

LT Col Almer wore this baseball cap. The 552nd Airborne Early Warning and Control Wing (AEW&C) was the primary unit that flew EC-121D operations in Southeast Asia.

Flying jacket that Maj Lyly Almer wore during his early service in Southeast Asia.



少佐のMA-1に付けられたADC (AIR DEFENCE COMMAND=航空防衛軍団) パッチ、コマンドパイロット章、階級章はどれも官給品のように、階級章やエアフォースマークを見ることがかなり着込まれた様子が見える。白いネームテープにステンシルで名前を記すスタイルは第2次大戦以前から見られ、革のネームタグが普及したベトナム戦争でもしばしば用いられている。

フライトジャケットの代名詞とも言えるMA-1と、ライトゾーン用のL-2Bは朝鮮戦争の休戦とほぼ同時に採用されて以降20年以上もアメリカ空軍の制作品として君臨した傑作ジャケットで、大きく分けて初期型、中期型、後期型の3つのモデルがある。左肩にエアフォースマークのデカールが付き、酸素マスクのホースを固定するボックスタブを装備していたこれらのジャケットは1960年代に入るとベトナムでの戦いを予期したかのようにライニングをレスキューカラーのインディアンオレンジに変更した中期型が現れ、このディテールは戦争の全期間を通して変更されることはなかった。軍隊では自らのキャリアを示すためにあえて古いデザインのユニフォームを着用する例がしばしば見られるが、60年代のアメリカ空軍もその例外ではなくベテランのバ

イロットやエアクルーの中には愛着のある旧式のジャケットを着続ける者もいたようだ。フライトジャケットを華やかに彩るパッチはベトナムやタイ、日本で作られたローカルメイドも多く、官給品よりも手の込んだ、あるいは雑な作りのこれらのパッチを使ってジャケットを自分好みにカスタムすることは実に簡単だったのだが、陸軍が毒の強い、自虐的なデザインを好んだのとは対照的に空軍ではコミカルで明るいスタイルが多く、徴兵された歩兵とエリートコースを歩んだパイロットのメンタリティの違いが感じられる。ベトナム



戦争はミサイル万能論により格闘戦が重視されず、第2次大戦を経験したベテランパイロットが引退する時期と重なるなど空軍にとって不運な要素が多かったためにエースパイロットは3人しか生まれなかった。代わりに自慢となったのはこなしたミッションの回数で、ベトナムツアー完了を意味する100ミッション達成パッチはパイロットやエア

クルーにとって垂涎的となったがソ連のSA-2地对空ミサイルが待ち構える北ベトナムに乗り込んで何度も無事に帰還するには相当な技量が必要だった。敵の防空網を叩く新たなコンセプトとして空軍が考案し、1965年に実戦投入された“ワイルドウィーゼル”のパイロットたちは攻撃隊に先行して敵の注意を引きつけるという危険極まりない仕事を果たしながらマスコットのイタチをデザインしたパッチで存在感を示し、そのスタイルは現在でもほとんど変わっていない。空軍はこの戦争で2251機もの航空機を失い、SAR (捜索救難)によって635人のパイロットおよびエアクルーが救出されている事実を見るとジャケットのオレンジライニングが決して伊達ではなかったことがわかる。戦争が終結しMA-1とL-2Bは制式フライトジャケットの座を新型のCWU-45/P、36/Pに譲った後もオレンジライニングを廃止したユーティリティジャケットとして着用を認められ、主に地上勤務員用として静かな余生を送った。敵の防空網を叩く新たなコンセプト



パーティーシャツに付けられた第552早期警戒航空団タスクフォース“COLLEGE EYE”のパッチに漢字で大眼と刺繍されているのはタスクフォースが当初BIG EYEと呼ばれ、支援基地が台湾にあったことによる。右のパッチは67年からタイを拠点として活動した第553偵察航空団“BAT CAT”、その隣は第553偵察飛行隊で、少佐が進級に前後して第552航空団のタスクフォースから第553航空団の飛行隊に転属したことが伺える。右袖にはタイ国旗パッチの下にベテランの証、100ミッション達成パッチが付けられている。

“空の海賊”が愛したジャケットたち

—USAFミュージアムのベトナム戦争フライトジャケットコレクション—

取材 Report / ミカコバークス Mikako Burks 撮影 Photo / ゲイリー コページ Gary Coppage 構成 / コンバットマガジン編集部、鈴木健太郎
東南アジアの空を我が物顔で飛び回り、北ベトナムから“空の海賊”と呼ばれたアメリカ空軍パイロット。USAFミュージアムに展示された彼らのフライトジャケットはひとつひとつが不思議なオーラを放ち、今も見る者を魅了する。MA-1とL-2Bを中心にそのコレクションをご紹介します。



2020 COMBAT MAGAZINE RECOMMEND Flight Jacket Catalog

空というもっとも過酷な戦場でパイロットを守るために作られたフライトジャケットは、その時代の新素材や優れた縫製技術、機能を追求した創意工夫を、その国の威信を賭けて惜しげも無く詰め込んだ最先端衣料で、現在も軍での採用は勿論、ファッション業界の注目も集めて止まないスーパークロージングだ。冬将軍が到来し本格的に迎え、この冬にぴったりなフライトジャケットの最前線をコンバットマガジンの目線で選りすぐってご紹介する。

NAKATA SHOTEN

中田商店 ☎03-3839-6866 <https://www.nakatashoten.com>

上野アメ横・御徒町の顔とも呼ばれる老舗サープラスショップの中田商店は創業から60年を越える間に数度のフライトジャケットブームを生み出してきた。とくに「トップガン」公開後、劇中でマーヴェリックはレザーのG-1を着ていたにも関わらず黒のMA-1が飛ぶように売れたというエピソードは有名。



**COCKPIT USA
TYPE A-2** ジャケット 米空軍現用
80,000円
フライトジャケットの傑作A-2を今に受け継いだCOCKPIT USA社製米空軍現用ジャケット。両胸に2枚のベルクロが付き、別売りの専用パッチでカスタムが楽しめる。

**MORGAN MEMPHISS BELL
A-2** フライングタイガー
54,450円
日中戦争時、蒋介石総統夫人に中華民国空軍の教官兼顧問として招かれ、米国の義勇軍フライング・タイガースを組織して対日戦を支援したクレア・リー・エンフォード(中将)が着用したA-2ジャケットをイメージしたレプリカ。



**MORGAN MEMPHIS BELLE
TYPE B-6**
価格82,500円
映画でも有名なB-17爆撃機メンフィス・ベル号の機長の名を冠するブランドから。2018年11月にマイナーチェンジを敢行。上質なシープスキンを使用してより忠実に再現した。



**MORGAN MEMPHIS BELLE
TYPE B-6 D-1**
価格82,500円
WW II時にB-17の機長を努めたモーガン氏のブランドから、地上整備員、俗に言うグラウンドクルーが着用したD-1をモデルアップ。ボアとライナーにムートンを贅沢に使用する。



**MORGAN MEMPHIS BELLE
R.A.F. IRVIN** イギリス空軍TYPE
SHEEP SKIN
価格96,800円
第2次世界大戦中にイギリス空軍(Royal Air Force)が採用したフライングジャケットを毛足20mmと長めの高級シープスキンを使用して再現。英国の気品漂うデザイン。



**SESSLER
TYPE B-10** 第14空軍フライングタイガース ワッペン付
価格21,780円
第二次世界大戦時から現代に至る米軍衣料のレプリカをリーズナブルな価格帯で提供するセスラー社から。日中戦争時に対日戦で活躍した航空部隊がモチーフ。



**SESSLER
TYPE B-15A**
価格21,780円
第二次世界大戦中に初登場したコットンジャケットB-10の後継となるB-15A。この2モデル以降、主なフライトジャケットはナイロン製に代わっていった。



**SESSLER
CWU-27P JACKET** 米空軍パッチ付 DESERT & SAHARA
価格7,150円
主に米軍でパイロットが着るツナギとして知られるCWU-27Pをセスラー独自の解釈でジャケットにした逸品。中田商店が別売りするワッペンでオリジナルのカスタムが楽しめる。



**COCKPIT USA
TYPE G-1** ジャケット 米空軍現用
価格96,800円
ニューヨークのソーホーに店を構えるヴィンテージフライトジャケットのレプリカ製造販売店から、米海軍現用のTYPE G-1ジャケット。山羊革使用のMADE IN U. S. A.



**COCKPIT USA
TYPE G-1 Movie Heroes**
映画「トップガン」忠実レプリカ
価格162,800円
映画「トップガン」(1986)で、トム・クルーズ扮するマーヴェリックが着たG-1ジャケットを忠実に再現。背中の台湾国旗も健在。



**MORGAN MEMPHIS BELLE
TYPE G-1 SPEC 55J14 1960's**
米海軍パッチ付
価格49,500円
1940年代後半から製造される55J14型の60年代バージョンでベトナム戦争時に活躍した米海軍航空隊の他、計6つのパッチをつける。山羊皮製。



**MORGAN MEMPHIS BELLE
TYPE G-1 SPEC 55J14 1950's REPLICA**
価格43,450円
1940年代後半から製造される55J14型をベースに'40~'50年と年代の異なる米海軍実物G-1を参考にして製作した。パッチの無いプレーンな仕様でスタイリングの幅が広がる。



**MORGAN MEMPHIS BELLE
TYPE N-3B** マイクロファイバー
価格36,300円
WW IIから現代に至る米軍衣料レプリカをリーズナブルな価格帯で展開するセスラーが、デュボン社製の新素材を駆使して製作したN-3Bは軽量かつ防寒性に優れる。今冬是非。



**U.S. NAVY TYPE G-8
WEP JACKET** 初期型
価格26,180円
1950年代中頃から1970年代中頃に米海軍が採用したナイロンジャケットの初期型。元来、ハイウエストなパンツと組み合わせる為、やや短めの着丈も忠実に再現している。



**HOUSTON
U.S. NAVY TYPE G-8 WEP JACKET** 後期型
価格26,180円
1950年代中頃から1970年代中頃に米海軍が採用したナイロンジャケットの後期型。初期型同様、コットン製の裏地にはパンツ用のサスペンダーボタンを忠実に再現している。

CÙNG CHUNG TAY GIỮ
LỬA ẤM GIA ĐÌNH



PHÒNG LAO ĐỘNG - TBXH TP. PHAN THIẾT

BÌNH ĐẲNG GIỚI - CHIA SẺ VIỆC NHÀ CỦA PHỤ NỮ VÀ NAM GIỚI

第15回
サイゴン物語 Saigon Memories

Propaganda Posters in Saigon Part 2

サイゴンで
プロパガンダポスター巡り

朝、路上でビンザン食堂を開き、バインミーの屋台を出しているのは女性だ。男たちはベトナムコーヒーを飲みながら、戦争将棋をしている。それだけで遊びと、ばくち担当は男性と、決めつけるわけではないが、平時、戦時にかかわらず、おしなべてベトナムの女性は働き者だ。戦時中のプロパガンダポスターの柱はホーチミンだったが、平時も共産党全体、ベトナムの全国民、ベトナム全軍の精神的支柱はホーチミンであり、彼の道徳的な教えを規範にしている。

文/コンパットマガジン編集部 Text/CM Editorial Staff
写真/今井今朝春、WPPコレクション Photo/Kesaharu Imai, WPP Collection

ベトナムへ空路で入ると、ハノイのノイバイ空港にしても、ホーチミン市のタンソンニャット空港でも同じく、一步、町中へ出たとたんに、プロパガンダポスターに出迎えられる。道路に沿って、T字形のポスター塔が据えられている。少しでも高いビルがあれば、その屋上に広告塔があって、そこにポスターがあがっている。プロパガンダポスターの基調となる色は赤。共産党の赤である。軍事関連の内容であれば、男女の兵士が主人公として描かれる。制服が緑なので、赤と緑のポスターになる。共産党のスローガン系のポスターでは、男女の労働者が主人公になる。彼らはブルー系のワークウェアを着用しているので、基調色の赤と青のポスターになる。これらは独特だ。

ポスターのテーマは、戦時中もしくは戦後で大きく変わってくる。1960年代、70年代に製作されたポスターでは、いかにして戦争を勝利に導くかという内容が、メインだった。そこでは、戦い抜く堅忍不拔の精神が描かれた。ヒーロー、ヒロインの人物を描いて英雄路線で表現したり、自己犠牲をとまなう英雄的行為を称

揚した。その結果、もたらされた勝利と平和がいかに尊いかを、表出するのがポスターの役目だった。こうしたポスターをまとめたコレクションがいくつかある。ドグマコレクションは、その代表的なものだ。主に北ベトナムの都市や田舎をまわって、個人やギャラリーが所有しているポスターを探した。そうして集められた数百点のポスターが、ギャラリー展示された。のちに、5000部の図録が限定出版された。内容は先にも挙げたが、決意、熱意、勇気、脅威、信念、英雄主義、英雄的行為、勝利、平和の項目を設け、それに関連する宣伝画、プロパガンダポスターを紹介している。ポスターのなかに記されたベトナム語が、英訳されている。「独立と自由ほど尊いものはない」というホーチミンの言葉は、その代表例である。

戦後のプロパガンダポスターは、共産党による政治路線がいかに正しいかを称揚する。ドイモイ政策の自画自賛が、その代表だ。また、男女平等、男女共働で家庭経営を進めようという教育スローガンは、平時のプロパガンダの柱になっている。

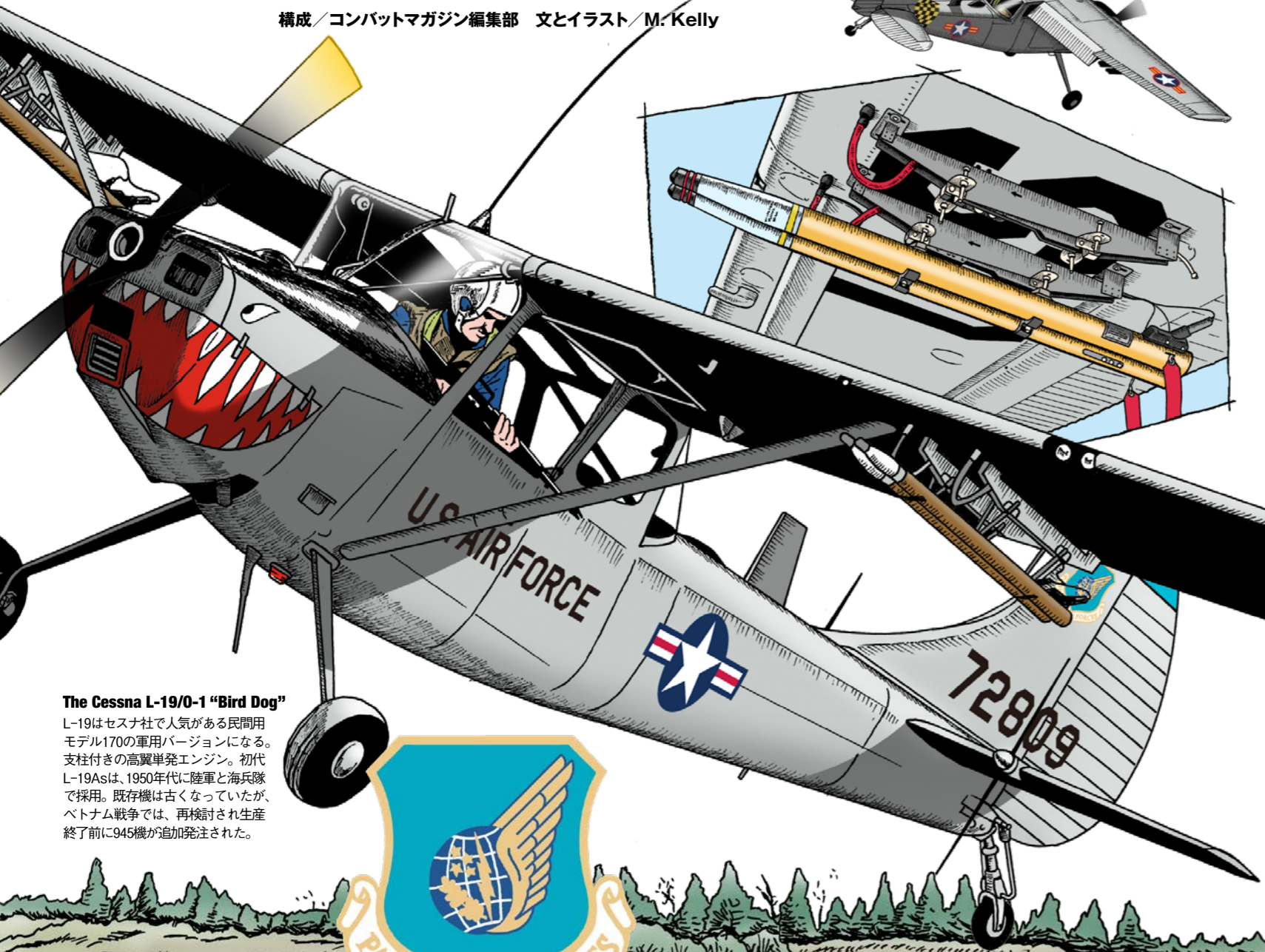


HIT MY SMOKE —FAC—

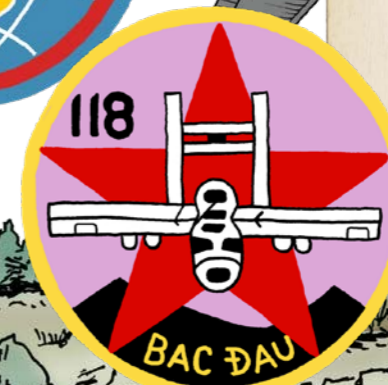
The Forward Air Controllers 我れ発見せり! 前方航空管制官

わずか時速72kmの飛行機が敵の位置を目視し、そのターゲットに白リンロケット(通称ワイリービート)を撃ち込み、マーキングするのが「前方航空管制官」(FAC)の任務。緊密な戦術支援は、戦闘爆撃機(F-100、F-4、F-105など)とリンクし、また地上部隊(歩兵部隊など)への航空支援をした。使用した飛行機は単発エンジンのセスナL-19/O-1「バードドッグ」だった。

構成/コンバットマガジン編集部 文とイラスト/M. Kelly



The Cessna L-19/O-1 "Bird Dog"
L-19はセスナ社で人気がある民間用モデル170の軍用バージョンになる。支柱付きの高翼単発エンジン。初代L-19Asは、1950年代に陸軍と海兵隊で採用。既存機は古くなっていて、ベトナム戦争では、再検討され生産終了前に945機が追加発注された。



FACは、主に近接航空支援ミッション(CAS)と接触部隊ミッション(TIC)での空爆を調整する事だった。ヒットさせるターゲットが特定されるとコマンド信号が送られ、すぐに70mmの白リンロケット、またはM18発煙手榴弾でマークする。ジェット戦闘機のパイロットがマークされた煙を確認し、攻撃の前にFACに許可を求める。FACは地上で接敵している味方の位置などを報告。そして最終確認後に爆撃が開始される。この戦術は非

常にうまく機能した。FACは常にパイロット、地上部隊と連絡を取り、マーキングを最終調整する。地上の戦闘部隊行動との間隔は50mを取る必要がある。しかしジャングルに境界線などはなく、エラーの余地はなかった。FACの飛行高度は18~1,500mの範囲で、通常はパイロットのみ、場合によっては観測者やカメラマンなどが搭乗した。こんな過酷な任務をする飛行機に、なんと攻撃兵器はまったく付いてはいなかった。さらに無線も初期は周波数のプリセットが限られ、同じチャンネルで2つ以上の伝送が重複していた。パイロットたちは自



ガスブローバック タクティカル・ ハンドガン

進化が止まらない東京マルイの
ガスプロ・ハンドガン。
サバゲにもってこいの
最新3モデルを一挙紹介!!



M45A1 COBP



M45A1 CQBピストル
●全長:222mm
●重量:823g(空マガジン装着時)
●装弾数:27+1発
●価格:20,680円

今回のタクティカル系ガスプロ・ハンドガンにピッタリのオプションパーツ。左からタクティカルサイレンサー(FDE) (価格4,180円/ブラックカラーもあり)、CQフラッシュブラック/フラット・ダークアース (価格2,728円)、マイクロプロサイト (価格7,480円)。この中でも特に小型ダットサイトの「マイクロプロサイト」は、スライドに直付できるモデルには欲しいオプションだ。もちろんハンドガンだけでなく、ライフルにもピッタリ。シチュエーションに合わせて、オプションも用意したい。

秋もすっかり深まり、サバゲには暑すぎず、また寒すぎないベストなシーズン真っ盛り。と言う事で、サバゲを楽しんでいることだろう。「平成」から「令和」に年号も変わり、新たな時代の幕開けに、サバゲ装備も更新してみたいがどうだろうか。そんなユーザーのため、アウトドア・フィールドではサイドアーム、…今風に言うとセカンダリー・ウエポンとして、またインドア・フィールドではコンパクトさと命中製の高さ、連射性などなど、プライマリー(メイン)・ウエポンとして十二分に威力を発揮する東京マルイのガスブローバック・ハンドガン。その中でも、タクティカル系の最新3機種をピックアップ! 自分のスタイルに合わせてチョイスするのもいいだろう。

FNX-45タクティカル

FN社がUS SOCOM (合衆国特殊戦術合群)で行なわれたM9の後継制式採用拳銃のトライアル「J.C.P.P (ジョイントコンパクトピ

ストル プログラム)」向けに、2007年に開発したタクティカル・ハンドガン。ハンマー露出型で、フレームにアンダーレール、サイレンサーの装着が可能、さらに小型ダットサイトをスライドに直付が可能となっている、まさに戦うためのハンドガンとしてリリースされた。これを東京マルイがアンダーレール装備、ダットサイト直付、無改造でサイレンサーの着脱可能、さらに、ユーザーの手の大きさに合わせグリップ後部のバックストラップのサイズを簡単に変更できる。実銃と同じギミックを搭載してモデルアップした。製品には、チェックリングのデザイン2タイプ、サイズ2タイプの計4種のバックストラップが付属しているので、好みに合わせて変更が可能だ。

HK45タクティカル ブラック

発売されたばかりのHK45タクティカルブラックは、SOCOMピストルを彷彿とさせるデザイン。それもそのはずで、HK45はアメリカ軍特殊部隊が求める「理想の.45口径ハン

ドガン」を目指して開発された経緯を持つ。そのHK45に、バレルを延長して、サイレンサーを直付できるようにした、タクティカル・ハンドガンだ。マガジンキャッチ、スライドストップ、セフティーレバーは左右どちらからでも操作可能なアンビ・タイプになっているので、どんな状況でも即座に対応できるポテンシ

